

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第115版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

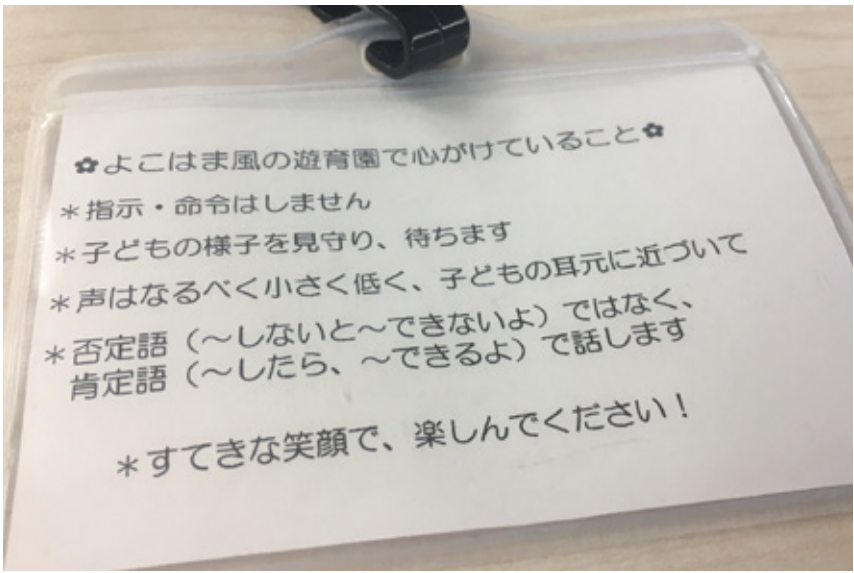
カグヤグループも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家絵本家 聴福庵



保育体験中は首から下げたカードのおかげで、いつでも眼差しの確認が出来ます。

共に保育する ～眼差しの体験～

横浜市のよこはま風の遊育園で心がけていること☆
*指示・命令はしません
*子どもの様子を見守り、待ちます
*声はなるべく小さく低く、子どもの耳元に近づいて
*否定語（～しないと～できないよ）ではなく、
肯定語（～したら、～できるよ）で話します
*すてきな笑顔で、楽しんでください！

この体験の際には、保護者が保育室に入る前には必ずカードをお渡ししているとのこと、園の考え方を伝えるだけでなく、実際にどういう眼差しで普段の保育をしているかを体験してもらっているそうです。勿論、先生たちがこの眼差しで保育をしているだろうかと思っても、保護者の方も実際に子どもたちと過ごす中で、その目線で見られているだろうかと思える機会にもなり、そんな体験が日頃の家庭内での言葉掛けにも繋がるのだそうです。複数の子どもを預ける保護者の方には繰り返していることも、園で大切にしていることを体験してもらうことを大事にしていると、園長の川辺先生は仰います。



添えられたコースターは、なんと看護師さんが和服をリメイクしてつくったもの！様々な職種の先生たち、そして保護者の方々も一緒に、子どもの声を聴いています！

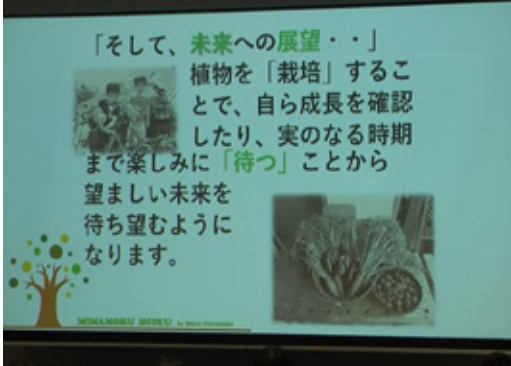
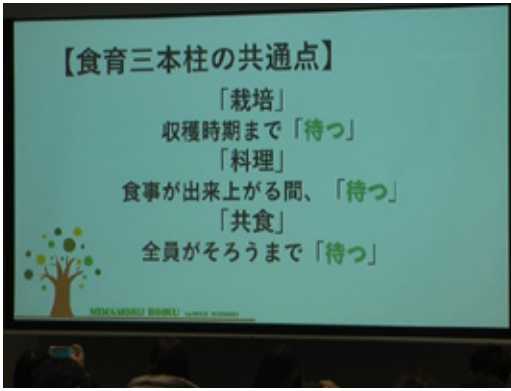
受け継がれるおやつ



日本の伝統、その土地の伝統を大事にされ、子どもたちに繋いでいこうとする素敵な取り組みだと感じました。

先月、宮崎県の稗田保育園様へ訪問した際に、芋と餅を練ってつくった「ねったば」というおやつを頂きました。初めて耳にしましたが、色々と呼び名もあるそうで、こちらの地域の郷土料理ということ。そしてこの日はちょうど鏡開きの日。お餅を使っておやつとしては、ぜんざいなどとはよく思いますが、あえて子ども達にも人気の「ねったば」にされたそうです。こうした郷土料理も今では「食べたことはあっても作り方が分からない」という大人も増えてきたとか。「子どもがおいしいかったと言うので、作り方を教えてほしい」という保護者の声も多く、保護者用にレシピを用意しておくこともあるそうです。

地域ごとの産物を上手に利用して、風土にあった食べ物として作られ、食べられてきた郷土料理。そういう意味では郷土料理の味はまさに故郷の味ですから、こうして郷土のものが残っていくというのは子どもにとっても本当に大事なことだと感じますし、子ども達がこうして保育園や家庭などで食べた味を記憶し「あの時食べたあの味」としてやがて次世代へ伝えていくことを思うと、郷土料理を継承していくことの私たち大人の責任は思った以上に大きいのかも知れません。



お互いの職種を理解し、一致団結して協力し合うためにも、時には職種の壁を越えて、一緒に話し合い学び合う時間を大事にしていきたいと感じています。

職種の壁を取り払う

先日、ギビングツリー主催の「職域別見守る保育セミナー」が開催され、全国から保育士だけでなくあらゆる職種の先生方が集まりました。

対する意欲を持つようになるという内容でした。

それを受けて、栄養士の方からは「食育三本柱で共通する待つという大切な行動は給食室から発信できることに気がきました。」という声や、事務職の方からも「今までは『私は事務員だから』と一歩引いた状態で保育を見ていたのですが、保育に携わる一員であると言う意識を持ち、違う職種の先生とも積極的にコミュニケーションを図っていききたいと思いました。」というお声がありました。

園で働く人は全員が保育者であり、職種の壁を取り払うことの大切さを改めて教えていただきました。

カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

“みんな一緒に” 中間報告



“一緒”は難しいけれど“ひとり”よりずっと楽しいはず！

色々な価値観の中で同じ方向を見るのは結構大変なことです。これまでずっと環境を整えたり、情報共有の場を多く設けたりと色々試行錯誤する中で、人それぞれに特性も違えば働きやすさの感じ方も違います。互いに違和感を感じる度に話し合ってくれど、話せば話すほどに行きつくところは「一緒に」ってどうゆうことなんだろっね？」それはまるでゲームで振り出しに戻った気分です。そんな中でも優先したのは、今の自分

の状況を自ら発信し、それを聴くこと。何をしていた、どんなことに困っているのか、自分がそれをどうしたいと思っているのかなど…。話し合っ、聴き合っを幾度となく繰り返すごとに、お互いへの思い遣りが増している気がします。

同じような話の繰り返しに、絶望的な心境になることもありますし、それが即改善に直結するわけではありませんが、ほんの少しずつでも良くなりそうな感覚は不思議と出てきている気がします。

何しろ個性派揃いのカグヤです。粘り強く、すべては良いことになる信じて、諦めずに試行錯誤を続けていこうと思います。



ひとりで抱えてしまっているものをすべて出し合い、全員の作業スケジュールを見える化。これで誰でも手伝える環境がバッチリ整ったはず？

沖縄から邪気払い

沖縄の風物詩である「ウニムーチー」をご存知でしょうか？ 月桃の葉で包まれた餅（ムーチー）を食べると邪気が払われ生命力がつくと言われ、昔から子どもや家族の健康を願うお祭りとなっているそうです。

今年も沖縄のお客様が園児さんと一緒に郷土文化体験として作ったありがたいおすそ分けをいただき、わくわくしながら月桃の葉を開いてみると、そのお餅の配色を見て思わず「可愛いー」の声が！ 今年も黒糖、紅芋、タンカンの3種類の味のムーチー。見た目はもちろん味わうのも



園児さんや先生方の写真付きで工程を伝えて下さいませ。月桃茶の効能の説明も♪



今年も健康に過ごせますように

一期一会庵

心の平和と一円対話

先日、ある保育園で理念研修を実施し「一人ひとりの心に心の平和をつくる」という初心を職員たちと共に学び直す機会がありました。開設者の「乳幼児期は人格形成の基礎だからこそ、何よりもこの心の平和が重要だ」という動機からはじまり、すでに約70年の歳月が経っているところでした。

具体的な研修では、初代園長から現在までの保育園の変遷を写真や動画、よもやま話を交えつつ、クイズ形式で皆で楽しく行いました。この卒園児だった方も現役の保育者としてたくさん居ることも重なり、和気藹々とその当時のことを懐かしく笑い泣きしながら語り合っていました。

研修後は、改めて自分たちの取り組んでいることの意味や価値を自覚し全員がやる気に充ち溢れていたように思います。歴史を学び直すことは、今を学び直すことに繋がります。先人たちの苦労や努力の御蔭様があって私たちもその道を踏襲して歩み続けていることを知ることは、これからの変化

に挑む際の勇気や自信になっていきます。偉大な見守りを感じながら職員たちが全員で理念に取り組める安心した環境は、子どもの発達や成長にますます好ましく働いていきます。

ユネスコ憲章の中に、同様に「心の中の平和」という理念が出てきます。「戦争は人間の心の中で生まれるものであるから、人間の心の中に平和の砦を築かなければならない」と記されます。つまり戦争を産出するのは、人々の心の中ではじまる戦争から先に生まれるのだというのです。だからこそ「心の中の平和の砦」を築くには、まずは自分自身が平和であることが何よりの大前提でなければなりません。そしてそれを実現するには、人の話を素直に聴く必要があるのではないかと私は思います。

自分の価値観と異なる世界をどのように受け入れ、それを感謝にまで昇華していくか、古今の先人たちは人間としての徳を磨けと仰います。そうやって人々の中に傾聴、共感、受容、感謝の実践を通して心が円く育つとき、心の平和は世界に広がっていくように思います。

子どもたちが安心して暮らしている仕合せな世の中を譲っていくために、「一円対話」をさらに多くのお客様へ広げていきたいと思っています。

編集後記



遂に完成！年々、完成度が上がってきているような気がします♪

2月といえばバレンタイン！今年も男性クルーとパートナーさんへの感謝を込めて、カグヤ婦人部が総力を挙げチョコづくりを実施しました。どんなチョコにしようかと、あれこれ考える時間も女子会のような賑わいですが、チョコにまみれてワーキヤーいつている姿は、いまではカグヤの風物詩となっております。

そして出来上がったチョコを包んでいると、学生の頃、ドキドキしながら大好きな人にチョココレクトを手渡した記憶が蘇ります。大人になると渡す相手も様々…。色々な想いが走るバレンタイン、皆さんはどのように過ごされましたか？ 素敵なお話があったら、ぜひお聞かせください！

（佐藤真樹）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます